

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しもう

木を使おう

三重の林業



10月12日(日)三重県立熊野古道センターで「みえ森林フェスタ2025尾鷲」を開催しました！
(関連記事2ページ)

目次

2025年11月
No. 449

バックナンバーはこちら



話題を追って	10月12日(日)三重県立熊野古道センターで「みえ森林フェスタ2025尾鷲」を開催しました！ 農林水産部みどり共生推進課	2
話題を追って	躍動する林研グループ「熊野林星会」 熊野農林事務所 林業普及指導員 平田 聖	4
話題を追って	ヤマザキ椎茸園が第58回全農乾燥椎茸品評会で林野庁長官賞を受賞しました！ 松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白	5
話題を追って	第11回みえチェーンソー技術競技大会を開催しました みえチェーンソー技術競技大会実行委員会	6
話題を追って	令和7年度林業普及指導員 近畿ブロックシンポジウムを開催しました 林業研究所 普及・森林教育課 角屋 圭祐	7
話題を追って	林業体験ツアーを開催しました！～林業の魅力の発信と林業就業者の確保に向けて～ 公益社団法人 みえ林業総合支援機構 事務局長 中村 元久	8
話題を追って	三重大学生生物資源学部2年生全員が林業研究所とウッドピア松阪を見学しました 林業研究所	9
頑張ってます！	三重県に移住して木工をはじめました。 古園 古園 尚輝さん	10
寄稿	長森なあな日常 ～壁にぶち当たった後に思うこと～ 松阪飯南森林組合 長森 悠介	11
この人に聞く	第119回 古河林業株式会社 四日市営業所 展示場長 山下 順弘 さん 聞き手:四日市農林事務所 林業普及指導員 糸魚川 学	12
連載	<三重大学>第33回 素材生産のための幹線整備は遅れているのか～林道等の望ましい総延長の妥当性～ 三重大学大学院 森林利用学研究分野 渡部 優	14
技術情報	ドローンを活用した造林初期のモニタリング 林業研究所 主査研究員 海津 江里	16
木材市況	木材市況(令和7年10月)	18
その他	三重の林業(令和7年9月号)を読んで ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～	18

10月12日（日）三重県立熊野古道センターで 「みえ森林フェスタ2025尾鷲」を開催しました！

農林水産部みどり共生推進課

令和7年10月12日（日）、尾鷲市の三重県立熊野古道センターにおいて「みえ森林フェスタ2025尾鷲」を開催しました。

（「みえ森林フェスタ」について）

「みえ森林フェスタ」は、県民の皆さんが森林や木に親しみ、森林への理解と関心を深めていただくことを目的に開催しています。

台風の影響により開催が危ぶまれましたが、無事開催することができ、約800名の方が来場され、さまざまなステージイベントや各種ブースを楽しんでいただきました。



屋外の各種ブース

（ステージイベントについて）

三重県立熊野古道センターのステージでは、さまざまなイベントを開催しました。

まずは地元の尾鷲高校軽音楽部によるオープニングライブを開催し、「みえ森林フェスタ」のスタートを盛り上げていただきました。

また、森の精「モリゾー・キッコロ」のじゃんけん大会や、ラジオ番組（FM三重）で三重県の自然の魅力を発信している「あつ」さんによる「森の音楽教室」、2025ミス日本みどりの大使「佐塚こころ」さんによる森のクイズ大会、さらにはスポーツジャーナリストでフォレストサポーターで

もある「中西哲生」さんによるトークショーを開催し、来場者の方に森林や木の魅力を発信しました。



尾鷲高校軽音楽部によるオープニングライブ

（みえの森づくりポスターコンクール表彰式）

「みえの森づくりポスターコンクール」は、森林や樹木の大切さや、森や自然を守り育てる思いなどを表現するポスター原画の作製を通して、次代を担う子どもたちの森林づくりや緑化に対する意識を醸成することを目的として三重県と公益社団法人三重県緑化推進協会が共同で実施しています。

本年度は、県内50校から計257点の応募があり、審査の結果選ばれた、特選、準特選、入選者に賞状と副賞を授与しました。

表彰式の最後には受賞者の皆さん全員で記念撮影を行いました。



表彰式記念撮影

(各種ブースについて)

会場では、県産木工品の展示・販売や、「みえの木製品コンテスト」の作品を展示する木工品ブース、三重の木のおもちゃで遊ぶミエトイ・キャラバン、森の素材で工作体験ができるワークショップブース、森林・林業の働き、大切さを学ぶことができる森の魅力発信ブース、地元の特産品を味わうことのできるブースなど、たくさんの方々に森林や木、自然にふれあえるイベントをお楽しみいただきました。

また、地元尾鷲で林業を営む「濱中良平」さんを講師として、尾鷲ヒノキ林業について学ぶシンポジウムを開催しました。

古文書を読み解くことにより、尾鷲ヒノキ林業の歴史を学ぶことができ、参加者の方は興味深く話に聞き入っていました。

今後も「みえ森林フェスタ」をはじめとしたさまざまなイベントの開催を通じて、県民の皆さんが森林や木、自然にふれあえる機会の創出に努めてまいります。



マガジラック製作体験



地元特産品ブース



みえの木製品コンテスト作品展示



ミエトイ・キャラバン



尾鷲ヒノキ林業シンポジウム



躍動する林研グループ「熊野林星会」

熊野農林事務所 林業普及指導員 平田 聖

熊野林星会は、今から37年前の昭和63年に出来た林研グループであり、以来、木工教室や木工コンクール、林業体験といった取組を継続しています。今回は、精力的に取り組まれる中で素晴らしい成績を収められたのでご紹介いたします。

○全国林業研究グループ近畿大会 準優勝

2025年9月4日(木)、京都市で開催された「全国林業研究グループ近畿大会」において、熊野林星会の田中俊輔氏が三重県代表として出場し、近畿2位(準優勝)という成績を収めました。

テーマは「小さな製材所の未来について考える」で、小さな製材所が持つ製材技術の価値や教育ボードゲーム「セーザイゲーム」(三重大学との共同開発)を活用した木育・研修での実践事例などを発表されました。

質疑応答では、「セーザイゲーム」をするだけで無地の木材に価値を感じるようにしてほしい、といった高度な要求を含む意見が飛び出す等、参加者からの関心を集めました。



全国林業研究グループ近畿大会 表彰の様子

(発表者コメント)

私たち小さな製材所が持つ技術には、木の価値を最大限に引き出す力があります。製材所の存在意義を伝え、林業文化を次世代へ残すために、これからも取り組みを続けていきたいです。今回の評価を励みに、地域の仲間とともに活動を広げていきます。

○第19回キッズデザイン賞 受賞

2025年9月17日(水)、第19回キッズデザイン賞の優秀賞等の発表があり、優秀作品36作品の中に「セーザイゲーム」が選ばれ、子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 消費者育成部門で奨励賞(キッズデザイン協議会会長賞)を受賞しました。

今回の受賞は、子どもたちにとって安全であることはもちろん、「子どもたち自らが考え、行動する機会を創出する」、「現代社会ならではのデリケートな課題への対応」などの観点で優れた作品であると評価を受けたこととなり、今後の「セーザイゲーム」を活用した更なる森林教育の推進が期待されます。

(講評者コメント)

林業を個別解ではなく、全体像から捉えることができる疑似体験ゲームとして高く評価した。目利きや木取りで木材の価値が変わることを理解することで、日常における木材の見方、林業の捉え方も変わっていくだろう。キットの素材、デザインも洗練されている。



キッズデザイン賞 表彰の様子

○おわりに

熊野林星会は、近年、「セーザイゲーム」を主力武器に、精力的な活動を全国的に展開しています。さらに、地域における森林教育活動にも力を入れています。

こうした活動を地域の関係者が理解し、協力しながら森林教育を進めることが、林業だけでなく地域全体の活性化に寄与すると感じています。

ヤマザキ椎茸園が第58回全農乾椎茸品評会で林野庁長官賞を受賞しました！

松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白

1. 全農乾椎茸品評会とは

毎年、全国農業協同組合連合会が主催している乾しいたけを対象とする品評会です。今年開催された第58回の品評会にて、全国14県346点という多数の出品の中から、多気郡多気町で乾しいたけを生産されているヤマザキ椎茸園が「上どんこの部」で、農林水産大臣賞に次ぐ賞である林野庁長官賞を受賞されました。

なお、ヤマザキ椎茸園はこの品評会の入賞の常連で、過去、農林水産大臣賞を7回、林野庁長官賞を11回も受賞されております。評価の高い乾しいたけを作り続けているヤマザキ椎茸園と乾しいたけについてお話します。



写真-1. ヤマザキ椎茸園の原木シイタケ

2. ヤマザキ椎茸園のこだわり

① 自然に任せた育て方

現在、しいたけ栽培の主流は菌床と呼ばれる人工培地を用いるものですが、ヤマザキ椎茸園は原木でしいたけを栽培し、それもビニールハウスを使わない昔ながらの森林内で育てる方法にこだわっています。

原木しいたけは、秋の黄葉のころに伐採したクヌギやコナラの木にしいたけ菌を植え、森林内で2年もの長い時間寝かせることで出来上がります。その際に早く収穫できるよう手を加えたりはせず、自然の中でじっくりと育てる事で、野性味あふれる香りとしっかりした肉質の、美味しいしいたけを作ることができます。



写真-2. ヤマザキ椎茸園のホダ場

とはいっても、原木を森林内に置いて何もしない訳ではありません。実はしいたけの好む環境は人間が快適に感じる環境と似ているらしく、適度な日陰や適度な木洩れ日、それに風通しの良い環境を作るために、日々、除伐や草刈りなどを行い、しいたけが喜ぶ環境を整えているそうです。

② 原木確保のこだわり

しいたけ栽培に使用する原木は、すべてヤマザキ椎茸園ご自身で伐採されています。原木の伐採は適期を外すとしいたけの発生量に大きな影響が出るらしく、良好な原木を確保するために伐採木の黄葉の度合いを見て最適な時期で伐採を行っているそうです。

また、ほだ木(原木にきのこの菌が行き渡ったもの)を並べる際に直径を揃える必要があることから、量を確保できず一般的には敬遠されがちな大径木も積極的に利用し、大径木ならではの肉厚で歯ごたえのあるしいたけの生産につなげております。

3. 乾しいたけの食べ方

乾しいたけを料理する際は、あらかじめ水で戻す必要があります。冷水で戻す事が望ましいため、水に浸して冷蔵庫へ一晩入れておくとういでしょう。乾しいたけは生しいたけに比べてひと手間かかりますが、水で戻してから加熱調理することでうまみ成分であるグアニル酸が増加するため、料理がとても美味しくなります。

ところで、乾しいたけは傘の開き具合で名前が変わることを皆さんご存じでしょうか？傘の開きが5～6分の乾しいたけを冬菇(どんこ)、6～8分程度開いたものを香信(こうしん)と呼びます。どんこは香信にはそれぞれ良さがあり、どんこは肉厚で食感がよいことから、シイタケステーキや煮物、それに鍋など、しいたけがメインになるような料理に適しています。それに対して、香信はどんこに比べて出汁が出やすいため、みじん切りやスライスなど料理の材料として使うと美味しいと思います。

4. さいごに

ヤマザキ椎茸園の乾しいたけが気になった方は、ホームページから購入できます。そのほか、スーパーの地物コーナーや乾物コーナーも探してみてください。皆さんの近所でも手に入るかもしれませんよ。



第11回みえチェーンソー技術競技大会を開催しました

みえチェーンソー技術競技大会実行委員会

令和7年10月5日（日）、多気郡多気町のVISON（ヴィソン）内のKiond（キオンド）芝生広場において、第11回目となる「みえチェーンソー技術競技大会」を当実行委員会主催により開催し、県内の6事業体から14名の現場技術者が参加しました。

この大会は、他産業に比べ労働災害が多い林業現場におけるチェーンソーの安全で正確な作業技術の向上を図ること、あわせて他事業体の技術者との交流促進、一般の方への林業のPRを図ることを目的に開催しています。

競技は「丸太合わせ輪切り」「枝払い」「簡易伐倒」の三種目で行われ、三種目の合計得点で順位が決定します。



丸太合わせ輪切り競技



枝払い競技



簡易伐倒競技

時間の速さと仕上がりの正確さの点数から、不安全な動作等に対するペナルティポイントを減算したものが各競技の得点となります。

当日は、小雨の降るあいにくの天候でしたが、参加した選手は上位入賞を狙ってスピードと作業の正確さ、安全な動作を競い合いました。

採点の結果、優勝は谷三成さん（三重くまの森林組合）、準優勝は豊田海渡さん（三重くまの森林組合）、3位は西川星輝さん（松阪飯南森林組合）との結果となりました。



出場者の皆さん

この大会を通じて現場技術者の安全意識の向上と、安全で正確な作業技術の習熟につながることを期待しています。

令和7年度林業普及指導員 近畿ブロックシンポジウムを開催しました

三重県林業研究所 普及・森林教育課 角屋 圭祐

令和7年9月18日（木）、19日（金）、津市のアストホールにて、令和7年度林業普及指導員 近畿ブロックシンポジウムを開催し、尾鷲農林水産事務所の伊藤克之普及員が、見事、最優秀賞を受賞しました。

◆はじめに

林業普及指導員近畿ブロックシンポジウムは近畿ブロックの2府5県と近畿中国森林管理局が参加して実施されるシンポジウムであり、三重県では、平成30年以来、7年ぶりの開催となりました。

◆シンポジウム1日目（発表会）

シンポジウム1日目は、林野庁、近畿中国森林管理局、一般社団法人全国林業改良普及協会、各府県から56名が参加する中、近畿ブロック7府県の林業普及指導員が、地域の森林・林業の活性化等を目的として実施した普及活動に関する発表を行いました。また、近畿中国森林管理局 三重森林管理署からも民有林と国有林が連携した取組について、事例発表をいただきました。

<各府県の発表テーマ>※発表順

団体名	発表テーマ
滋賀県	主伐・再造林の推進に向けた普及指導～獣害柵を中心とした獣害対策の普及について～
京都府	林業の人材育成について
大阪府	大阪府泉州地域における市町村支援・事業調整の取組について
和歌山県	有田地域における林業労働安全対策の取組について
兵庫県	しそうの林業と木材利活用の普及指導について
奈良県	山添村における奈良県フォレスターの支援について
三重県	尾鷲林政推進協議会への支援について

こうした中、尾鷲農林水産事務所の伊藤普及員は、「尾鷲林政推進協議会への支援について」と題して、日本農業遺産に認定された尾鷲ヒノキ林業の保全計画実行にかかる支援や、知名度向上等に向けて10月7日から11月14日にかけて実施するクラウドファンディングなどについて発表し、厳正な審査の結果、近畿ブロックの最優秀賞を受賞しました。伊藤普及員は、近畿ブロックの代表として、12月に東京で開催される全国シンポジウムに参加する予定です。



発表する伊藤普及員

◆シンポジウム2日目（意見交換会）

シンポジウム2日目には、普及活動に関する意見交換会を開催し、主伐・再造林やスマート林業、森林教育の取組など、各府県の現状や課題、優良事例等について情報交換を行いました。

◆今後について

2日間のシンポジウムを通じて、各府県の普及員等とさまざまな意見交換を行うことができました。こうしたつながりも大切にしながら、今後も地域の課題解決に向けて普及活動に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、開催にあたって多くの方に運営等にご協力をいただきました。皆様のおかげで無事シンポジウムを終えることができました。ありがとうございました。

林業体験ツアーを開催しました！ ～ 林業の魅力の発信と林業就業者の確保に向けて ～

公益社団法人 みえ林業総合支援機構 事務局長 中村 元久

（公社）みえ林業総合支援機構は、林業就業者の確保、林業人材の育成、林業事業体の支援などを目的に、さまざまな取組を行っています。今回、その取組の一つとして10月11日（土）に県からの委託を受けて「林業体験ツアー」を開催したので、その概要を紹介します。

1. 林業体験ツアーの概要

林業に関心があり、もう少し詳しく知りたい、体験してみたいといった方を対象に、座学（三重県の森林・林業の基礎）と実習（伐採現場の見学、林業機械操作の体験など）を半日で行う研修で、今回は、地元の大学生を含む6名に参加していただき、中勢森林組合の協力を得て津市で開催しました。

○座学

中勢森林組合の職員の方から、林業の現状や課題、林業の作業システム、木材の販売の流れなどについて分かりやすく説明をしていただき、ツアーに参加された方もメモを取るなど熱心に聞かれていました。



（座学の様子）

○現場見学と体験

座学の後、美杉町の林業現場に移動し、高性能林業機械（ハーベスタ）による伐採の様子を見学しました。その後、近くの土場で林業機械（グラップル）の操作体験やロープワーク（もやい結び、ロープ上げ）にも挑戦していただきました。

小雨が降る空模様でしたが、体験の時間には雨が止んでおり、参加者の方からは、「ハーベスタの伐倒を初めて見た。」「枝が折れる音など、緊張感を味わ

えた。」「実際の現場を見ると林業のイメージが分かって貴重な経験になった。」といった感想をいただきました。



（グラップルの操作体験）

○木材市場の見学

最後に、美杉町の木材市場に移動し、スギとヒノキの見分け方や、木材の競りの方法などの説明を聞いていただき、今回の林業体験ツアーを終了しました。



（木材市場の見学）

2. 林業体験ツアーを終えて

今回のツアーに参加された6名のうち、2名の方から「林業で働くことを本気で考えたい。」とのお話をいただきました。大変ありがたく、当機構としても今後の林業就業に向けて丁寧にサポートしていきたいと考えています。

三重大学生物資源学部2年生全員が林業研究所とウッドピア松阪を見学しました

林業研究所

三重大学生物資源学部が毎年実施している「農場・演習林実習」。今年は林業研究所とウッドピア松阪で行われましたので当日の様子を報告します。

この実習は毎年、三重大学生物資源学部が実施しているもので、今年は9月16日（火）に学部の2年生全員（135名）が林業研究所内の施設見学とウッドピア松阪を見学しました。

学生は2班に分かれ、一班は午前中に林業研究所、午後にウッドピア松阪を見学し、もう一班は午前中にウッドピア松阪、午後から林業研究所を見学しました。

林業研究所では、はじめに林業研究所長から「三重県の森林・林業の概要」についての講義を受けた後、さらに3つのグループに分かれてキノコ栽培棟、木材試験棟、採穂園・育苗施設、みえ森林・林業アカデミー棟の各施設を担当者からの説明を受けながら見学しました。また、獣害対策について箱罾やくくり罾の実演を交えて話を聞きました。

ウッドピア松阪でも同じく3つのグループに分かれ、ウッドピア松阪全体の概要説明の後、原木・製品市場、製材工場、内装材工場を見学し、木材の流通・加工について学びました。



概要説明



原木市場の見学



製品市場



製材工場



内装材工場



所長からの講義



きのこ栽培棟



育苗施設



箱わなの説明



木材試験棟



アカデミー棟



三重大学生物資源学部は自然環境の保全と農林水産業及びその関連産業、すなわち、食料、環境、健康、バイオにかかわる産業振興を担う人材の育成を目指しています（三重大学HPより抜粋）。

今回の実習を通して、一人でも多くの方が森林・林業・木材産業に関連した進路を選択していただくことを期待しています。

三重県に移住して木工を始めました。

ふるその なおき
古園 古園 尚輝

今回登場していただくのは、古園 古園尚輝さんです。木工やひのき精油製造に対する思いを中心にお話いただきました。

■自己紹介

大阪出身で、大学を卒業した後は公務員として働いていました。転職を考えていたころ、休日に訪れた大紀町で木工職人の方と知り合いになり、そこで木工品作りを体験させてもらいました。その面白さに興味を持ち、もともと体を動かすことや自然が好きだったこともあり、大紀町に移住を決めました。

移住後はその木工職人の方のもとで木工を学ばせていただき、開業をしました。現在は木工品やひのき精油の製作を行い、土産物屋や道の駅、企業などに商品を卸しています。



「古園 尚輝さん」

■日々の仕事について

木工品は、主にレーザー加工機を用いて製作しています。すべて三重県産の尾鷲ひのきを使っています。近くの製材所から出る端材を仕入れて、レーザー用の板に加工します。キーホルダーなどの雑貨や、精油を活用するためのアロマディフューザーなどを作っています。

ひのき精油は、ひのきの芯部分を帯鋸で棒状に加工し、ウッドチップパーを使いチップ状にして、蒸留機に入れて抽出しています。

精油は、現在2つのブランドを製作しています。ひとつは尾鷲ひのき、もう一つは大紀町の大内山地域の間伐材を使ったものです。同じひのき精油でも地域や大きさによって色や香りが異なっていて、奥が深いなと実感しています。

移住前は事務職であり、木工の知識も皆無だった

ので、最初の2年ほどは、木の性質・製材の方法・レーザー加工機の使い方・精油の蒸留方法など初めてのことでばかりで苦労しました。ただ、苦労した分だけスキルの向上を実感することができ、考えて製作した製品が売れると何よりも今後のモチベーションになります。

また、仕事の合間には、自宅用の机や棚などを作ることもあります。木工の技術は、日々の暮らしの中でも役立つ場面が多いのが魅力だと思います。



「精油の蒸留」

■今後の抱負

令和7年7月で、開業して3年目に入りました。まずは何よりも、安全第一で、怪我無く作業を続けていきたいです。

そして、三重県産ひのきの良さをより多くの方に知っていただけるよう、日常で使いやすい製品のラインナップを増やすことが直近の目標です。

さらに木工に限らず、視野を広げて興味のあることには積極的に取り組んで、木工と掛け合わせるなど新しい可能性を見いだせたらいいなと思っています。



「イベント出展の様子」

長森なあな日常 ～ 壁にぶち当たった後に思う事 ～

松阪飯南森林組合 長森 悠介

どうも、お久しぶりです。

松阪飯南森林組合に所属しています、長森です。突然ですけど、仕事でも勉強でもスポーツでも趣味でも壁にぶち当たる時って必ずありますよね。

あの瞬間って、真剣であればあるほど理想と現実とのギャップで内部崩壊しそうな気分になったりすると思います。

僕自身何に対しても、いけるやろ！と自信過剰なお気楽精神でやり始めてしまう性格も相まって、もの凄く低い壁に当たっては転けることが多いタイプだと思います。

以下ではその辺の体験談でも記していこうと思います。

「この場所行って木切ってきて」と言われることは、現場で作業している人は誰しも言われることがあると思います。

「了解す」と初めの頃から調子よく答えていた僕は、先輩からすると長いこと「何しとるんやろ、あいつ」って思われてたのかなーと今では思います。

最初は自分がどこにいるかもわからないところからスタートしていくと思います。

少し経って地図をある程度見れるようになると、わかった気に浮かれたまま尾根と谷だけを把握して距離感が全く掴めていませんでした。

その状態で「おい、図面も読めやんのか」と言われると、表面上謝罪はしていても、(いやいや読めるけどミスっただけやんか)と内心思っていました。地図を読めないのって結構みっともなく思われますんで認めたくなかったんでしょうけど、振り返ってみると素直にその言葉を受け止めなかった自分を非常に恥ずかしく思います。

こういう時期って間違えた原因を冷静に自己批判しないと、いつまで経っても同じミスを繰り返してしまうんですよね。僕は人と比較すると同じようなミスを繰り返してたのかなー、って思います。

それでようやく地図がある程度読めるようになると、地図を読むことで満足してしまっ、どこから作業を始めたらか楽なのか、明日の作業を考えるとどこまではやっておくべきなのか、そのためにはどこで車を止めてどこから歩き始めるのか、などの視点を持つことなく、長いことただ漠然と作業をし続けていました。

やっぱり、こんなことしてたら技術も伸び悩みますわね。案の定僕は「センスない」と言われてました。出来るようになったことに目を向けることも自己肯定感を上げるためにある程度必要とはいえ、出来るようになったことの上に更に何か積み上げられるも

のではないのかと考えることも広い視野で見た自己肯定感の向上に寄与するのかなとも思います。

木を切る、ってことも同様ですよな。

最初のうちは誰しもがチェーンソーを使うこともままならない状況からスタートすると思います。単純にあの機械って音も振動も未経験者からすると怖すぎるっすからね。

それでも少ない成功体験を重ねていくうちに、勝手に慢心し始めて何でも切れるように錯覚する人も出てくるかと思っています。他でもなく僕はその1人です。

こういう時に自力で処理出来ないかかり木が発生してしまった場合、人に助けを求めることが恥ずかしくなったり、少々危ないことをしてでも処理してしまおうと思ったりするかもしれません。

そして、意固地になって自己処理に努めた結果作業の進捗が悪くなったり労働災害に遭ったりすると、ある程度物理的な距離を空けて作業をする林業の特質上目を離せない人認定されてしまい、先輩から作業を任せてもらえなくなるかもしれません。

こうなってしまうのは、自分の努力だけで信頼を取り返すことがなかなか難しくなるのかと思います。素直に自分の出来てない様を受け入れた状態でヘルプを求めることが、たとえ小言を言われようとも大事になるよりはマシだと思いますし、次に繋がるのではないかと僕個人の経験から思います。

こうして振り返ってみると壁って案外大したものじゃなくて、自分自身を客観視出来ない状態や他人との無理な比較、なんとなくの積み重ねなどを繰り返して勝手に自分で作り出してるだけなんだろうなーと思います。

これらのどれが原因なのかを自分で言語化するなり、他人から教えてもらったり、身体や経験で直感的に覚え込ませるなりして、ちょっとずつ突破していくものなんでしょうね、壁って。

偉そうにここまで言ってきましたけど、僕もはっきり言ってピヨピヨですんでね。

きっと周りから見たら、もの凄く初歩的なレベルの壁に引っかかってるがっている最中です。

それでも壁の中に巨人がいるのって漫画の中だけなんで現実にはピヨピヨなものしか入ってないに違いないっす。

ってことで壁に直面している皆さん！一緒に1枚ずつ壁を乗り越えて、これからも巨大樹の森の中で壁外調査していきましょう！

それじゃ、さようなら！

第119回 古河林業株式会社 四日市営業所 展示場長 山下 順弘さん

聞き手：四日市農林事務所 林業普及指導員 糸魚川 学

今回お話を伺ったのは、古河林業株式会社四日市営業所展示場長の山下順弘さんです。

古河林業株式会社は、三重県等に自社林を所有しており、住宅に使用する木材の生産・加工、住宅の設計・施工を自社一貫体制で行うことができ、国産材による自由な設計の住宅が実現できます。

四日市営業所では、住宅の相談や見学ができるとともに、住宅に使用される木材を手にとって質感やぬくもりを感じることもできます。



山下 順弘 さん

○国産材の活用による「森」と「家」づくり

(古河林業は、令和5年にウッドピア松阪協同組合及び三重県との3者による「三重の木」等の利用の促進に関する協定を締結されるなど、国産材の積極的な活用を行う取組を進められていますが、その背景を教えてください。)

弊社は、三重県大紀町をはじめ、秋田県や宮城県に合計6千ha以上の自社林を保有しています。森林を適切に管理することや、地域で育った木をその地域の住宅に活用することで、カーボンニュートラルの実現に貢献することができます。また、自社で管理している森林から供給できる合法伐採木材の利用は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも資するものです。

社の活動を通じて、これらの社会的責任を果たすとともに住宅だけではなく価値を提供できたらと思います。

(三重県の木材の特徴を教えてください。)

大紀町の社有林から生産される伊勢ヒノキは、抗菌・防虫効果が高い特徴を持ち、柱材や土台に主に使用されています。また、地域材のより積極的な活用のため、通常はスギやベイマツを使うことが多い梁材についても、伊勢ヒノキを提案させていただいております。

(ほかの国産材の活用方法がありますか？)

構造材は100%国産材を使用しています。また、他社と連携し、国産のスギやナラを使用した家具の提案も併せて行っており、適材適所の国産材の活用を進めています。

○古河林業の「森」づくり

(大紀町にある自社林のことを教えてください。)

大紀町の自社林は平成20年に取得し、面積は573haでその約8割が保安林になります。森林の管理や木材の生産は、三重林業所の職員が行っています。

最近、短時間に多くの雨が降るゲリラ豪雨や非常に暑い日が続くなどの気候変動によって生活が脅かされることがありますが、我々の森が災害の防止や気候変動の緩和に役立つと嬉しいと思います。



大紀町の社有林

○古河林業の「家」づくり

(古河林業の家づくりの特徴を教えてください。)

設計士や営業スタッフがお客様の要望を聞き取り、自社林で生産された国産材による完全自由設計による住まいを提案しております。木材の生産から住宅の施工までを自社で管理していることから、要望に沿った柔軟な対応と適正な価格での提供が可能になっています。



三重県産のヒノキをふんだんに使用した内装

○森と人をつなぐツアー

(国産材の木造住宅に興味を持ってもらう取組を教えてください。)

社全体の取組として、「大黒柱ツアー」を行っています。このツアーは、オーナーの方に社有林で柱として使用する木を選定してもらい、林業所の職員の指導のもと伐採の体験もしてもらいます。住まいに活用する木を切り出す瞬間に立ち会うことで、より愛着を持ってもらえenと思いますし、森や木の魅力を合わせて体感できます。

また、四日市営業所の独自の取組として、木が育つ森や、森で育った木が木材として手を加えられていく様子が見学できるバスツアーを企画しています。大紀町の社有林で森を感じてもらい、ウッドピア松阪で木に手が加えられていく様子を見学することができます。ツアーの際には地元の食材を召し上がっていただき、地域の色々な魅力を感じてもらえるような内容としています。森の案内は三重林業所の職員が行いますが、ツアーの実施は職員の刺激にもなり、豊富な知識で参加者に森の魅力を伝えてくれます。

(リピーターの方などはいますか？)

はい。大黒柱ツアーに参加いただいた方で、その後もツアーに参加したいという方がいらっしゃいました。自分たちの活動で森に興味を持ってもらえたと思うと嬉しいですね。そのような要望をいただ

ましたら、いつでも対応させていただきます。



バスツアーでのヒノキの皮むき体験

○木を使うライフスタイル

(山下さんは昔から木を使うことが身近だったのでしょうか？)

自分の実家は木材加工等を行っており、昔から木になじみがありました。祖父に連れられて木材市場に行ったり、身近にあった木材加工用の道具の使い方を身に着けることができたりしました。木工体験のイベントの時などに、かななを子どもたちが使えるように調整したりできるのはその時の経験が役に立っています。

今の子どもたちは木材に触れる機会があまりないかと思いますが、様々な機会を通じて森や木に触れる機会を提供することで、将来木を使う生活が広がればいいと思います。

(最後に、今後の取組を教えてください。)

ツアーは森や木に馴染みのなかった方々にその魅力を伝えることのできる機会ですので、今後もブラッシュアップしながら継続したいと思っています。バスツアーはインスタグラム等で募集を行っており、投稿へは良い反応をいただけるのですが、ツアーの参加まで結びつけるにはさらなる仕掛けが必要だなと感じています。

日本は森に囲まれた国なので、地域の資源である森林の価値を多くの人に届けることで、森も人も元気になるような取組を進めていきます。

○古河林業株式会社四日市展示場



ホームページ



Instagram

<三重大学>第33回

素材生産のための幹線整備は遅れているのか
～ 林道等の望ましい総延長の妥当性 ～

三重大学 大学院 森林利用学研究分野 渡部 優

近年推進される、ICTによる林業合理化の実現には、生産基盤となる幹線路網の適切な整備が前提条件となります。本稿と後続の稿では、政策資料と既往研究から幹線整備の現状を整理し、しばしば指摘される「幹線整備の遅れ」に関する考察を深めます。

(幹線整備は遅れている?)

よく発達した路網は、人や機械の森林への到達を容易にし、森林作業の機械化による安全性の向上と木材生産コストの低減に寄与します。特に、素材生産コストの削減には、トラックが走行可能な林道等の幹線の整備が不可欠です(酒井1987)。林業が盛んな中欧や北欧では、森林域の幹線整備が1960年代より集中的に行われたことが、現在の効率的な素材生産の礎になったと言われています。

では、日本における幹線整備はどの程度完了しているのでしょうか?

国内における本格的な林道整備は、国有林では1899年に開始されており、理論的根拠に基づく林道の長期計画も1951年より策定されてきました(澤口、2006)。しかし、近年においても「相対的にコストの低い低規格作業道に比べ、10トン積以上のトラックが通行できる林道の整備が遅れている(林野庁2025)」ことが指摘されています。

この「林道整備の遅れ」はどのような根拠に基づいているのでしょうか?

直近の森林・林業基本計画(平成28年および令和3年策定)では、林道等の現況総延長(約20万km)に対し、その「計画目標値」を、それぞれ10年間で約24万km、15年間で約21万kmとしています。後者の目標値は、現況の整備進度(数百km/年)であっても、遠くない将来に達成が見込める値となっています。一方、最新の基本計画における「望ましい総延長」は25万kmであり、仮に年間千km(0.1万km)のペースで整備できたとして、その達成には少なくとも50年近くかかる計算になります。

以上のように、望ましい総延長に対して延伸が停滞している点で「林道整備が遅れている」と言えます。一方、「その遅れは近い将来に解消されるのか」と問われれば、恐らく直近の整備目標は達成されるものの、それにより幹線整備の遅れが根本的に解消されるかは、望ましい総延長との乖離を見れば不透

明だと言えます。筆者は、幹線整備の遅れによる機会損失が存在するならば、それを最小化することが重要だと考え、研究を進めてきました。本稿と後続の稿では、関連する既往研究も含めレビューを行い、幹線整備の現状とこれから解明すべきことを整理します。

(望ましい総延長の妥当性?)

同計画に記載されている「林道の望ましい総延長」は、望ましい路網密度(m/ha)に、路網整備対象となる森林面積(ha)を乗じることで算出されています。前者の路網整備水準(表1)は、全国森林計画に傾斜区分や作業システムに応じて明示されています。

(別表)

地形傾斜・作業システムに対応する路網整備水準の目安

(単位: m/ha)

区分	作業システム	基幹路網			細部路網	路網密度
		林道	林業専用道	小計	森林作業道	
緩傾斜地 (0~15°)	車両系	15~20	20~30	35~50	65~200	100~250
中傾斜地 (15~30°)	車両系	15~20	10~20	25~40	50~160	75~200
	架線系				0~35	25~75
急傾斜地 (30~35°)	車両系	15~20	0~5	15~25	45~125	60~150
	架線系				0~25	15~50
急峻地 (35°~)	架線系	5~15	—	5~15	—	5~15

表1 路網整備水準の目安

後者の面積は明記されていませんが、木材等生産機能の発揮を目的とした路網整備の場合、育成単層林の面積(現況面積:1010万ha)が相当します。ここで酒井(2000)による傾斜区分別の森林面積の集計結果をみると、国内森林の39%が中傾斜地、41%が急峻地に位置します。上表より仮に、育成単層林における代表的な路網密度水準を25m/haとし、1010万haに乗じると、約25万kmという数値が得られます。

これまでの林道計画の研究・政策では、上表のような路網密度水準が主論点でしたが、望ましい総延長は、路網整備対象とする森林の面積にも影響されます。現計画では、育成単層林の面積を660万haへと、つまり現状の約65%まで縮小する考え方が示されています。仮にこの660万haを対象に、25m/haの密度で林道等を整備することを目標とすれば、林道等

は16.5万km整備されていれば数値上は十分となります。林道等の現況総延長は約20万kmですので、量的には整備は概ね完了しているという認識になります。

以上のように、現計画で提示されている望ましい総延長、ひいては「林道整備の遅れ」の認識は、路網整備対象とする森林の面積次第で、大きく変動する性質を持ちます。木材価格の変化や気候変動による豪雨頻度の増加、森林管理の担い手の減少等を考慮すれば、戦後拡大造林により造成された人工林の今後の土地利用のあり方について、再検討が必要となります。

では、木材生産林として利用すべき（可能な）森林はどの程度の規模（面積）になるのでしょうか？

これは、森林利用学の範疇を超えて、林学全体での議論、つまり国内森林の将来的な土地利用区分（ゾーニング）に関わる重要な問題になります。以下では、森林計画学分野で行われているゾーニングの観点から、木材生産林の規模を検討した例を紹介します。

（木材生産林として維持すべき人工林の割合？）

人工林の今後の土地利用を検討する一歩として、林地が持つ潜在的な能力（ポテンシャル）に基づく林地の分類が有効です。その手法として、災害リスクを横軸、林業収益性を縦軸とした4象限図（図1）が提案されています（多田2020）。タイプⅠは、高収益が見込めるが災害リスクが高く生産行為に配慮が必要な要注意林業地です。タイプⅡは、高収益が見込めかつ災害リスクが低い林業適地です。タイプⅢは、現状は高収益が見込めないが災害リスクは低い潜在的林業地です。タイプⅣは、現状は高収益が見込めずかつ災害リスクが高い林業不適地です。



図1 災害リスクと収益性の4象限図
注）多田（2020）の図を調整し作成

筆者（渡部ら，2024）は、この分類手法を岐阜県の31の市町村の人工林に適用しました。その結果、タイプⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに分類された林地は、それぞれ面積ベースで人工林全体の10%、29%、31%、29%を占めました（図2）。この結果は、災害リスクと収益性の2基準からみて、解析対象の人工林のうち、約3割（タイプⅡ）が林業経営に向いている「林業適地」である一方、約3割の林地は林業にも不向きな「林業

不適地」であることを示しています。しかし、ポテンシャルマップだけでは、どのタイプの人工林を木材生産林として維持すべきかまでは判断できません。ある土地利用目標（例えば、中長期的な素材供給目標）を達成するには、ポテンシャル上は非林業適地であっても木材生産林として利用する必要性も考えられます。人工林の何%を木材生産林として維持すべきか？という問いに答えるには、ポテンシャルマップと土地利用目標を照合し検討する過程がさらに必要になります。この検討については次稿以降、紹介できればと思います。

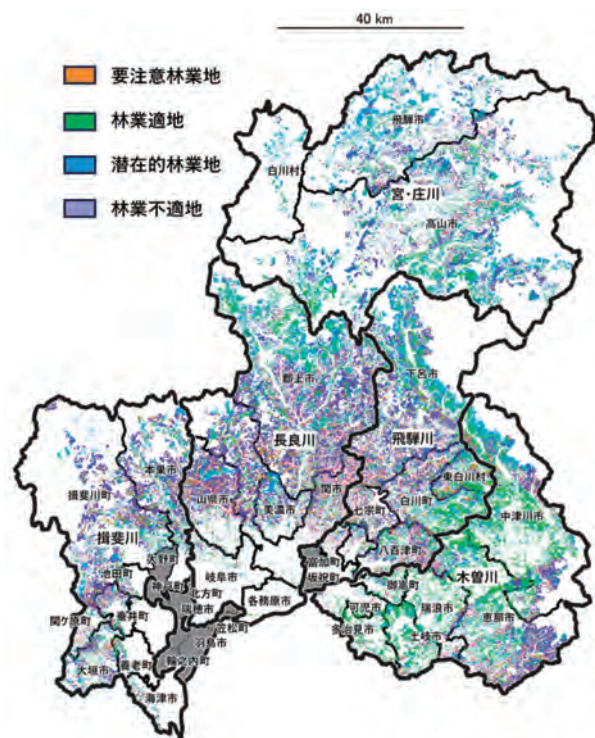


図2岐阜県人工林のポテンシャルマップ

（おわりに）

「幹線整備はどの程度遅れているのか」という基本的な現状評価を広域で試みると、「今後の人工林の土地利用のあり方」という、より根本的な問いに直面しました。このような多様な要素が絡み合っ

引用文献

- 林野庁，2025. 令和6年度 森林・林業白書 全文。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/r6hakusyo/zenbun.html>
酒井秀夫，1987. 合理的集運材方式に基づく長期林内路網計画に関する研究. 東京大学農学部演習林報告76号, pp.1-8.
酒井徹朗，2000. わが国森林地域の地形的特徴. 森林利用学会誌 15(3), pp221-224
多田泰之，2020. 8.2災害リスクへの対応. (田中和博, 吉田茂二郎, 白石則彦, 松村直人, 2020. 森林計画学入門. 朝倉書店).
渡部優，斎藤仁志，當山啓介，2024. 林業収益性と山地災害リスクを基準とした森林ゾーニングの広域適用. 森林計画学会誌.
<https://doi.org/10.20659/jjfp.A20240801>

ドローンを活用した造林初期のモニタリング

林業研究所 主査研究員 海津 江里

林業研究所では、令和4年度から造林初期のモニタリングにドローン空撮データを活用する研究に取り組んできました。この度、調査結果をとりまとめましたので紹介します。

●はじめに

全国と同様に三重県でも人工林の高齢級化が進んでおり、今後、主伐再造林が進められていくことが予想されます。しかし、新植地の苗木は自然枯死や野生鳥獣による食害といったリスクが存在し、定期的に見回り点検が必要となりますが、造林地へのアクセス困難や、林業作業者の人手不足といった点検作業をする上での課題があります。そこで、近年、森林・林業分野でも活用が広がっているドローンの空撮データを活用する方法について検討を行いました。

●調査方法

現地調査は、県内の新植地にて、植栽直後及び冬季に植栽地全体をドローンで空撮するとともに、調査地につき1～2プロットの標準地(10m×10m)を設定し、標準地内の苗木の根元径、樹高、枝張り幅を実測しました。撮影した空撮画像からMetashape Professional(Agisoft製)を使用して、オルソ画像とDSM(Digital Surface Model: 数値表層モデル)を作成し、QGISを使用して解析しました。異なる撮影時期間で比較するためのオルソ画像とDSMの作成方法については、「三重の林業No.445」にて紹介しています。

QGISにてオルソ画像を確認すると、植栽直後から1成長期後の次の冬季には苗木の枝張り範囲が大きくなっていることが確認できます(図1)。DSMは、

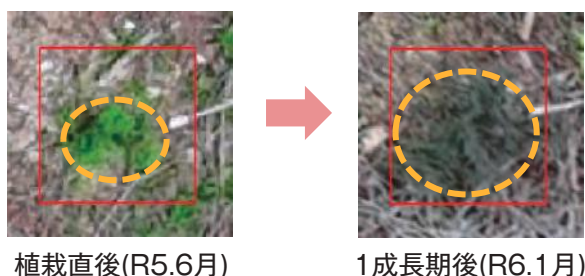


図-1 オルソ画像での苗木の変化
黄円は枝張り範囲、赤枠はDSM解析範囲を示す。

樹木や建物を含めた表面の高さ(標高)を示したデータですので、苗木を囲む大きさの枠内のDSMの最大値は苗木の頂点を、最小値は地表面の高さを、最大値と最小値の差は苗木の樹高を示すと推察されます(図-2)。そこで、枠内のDSMの最大値及び最大値と最小値の差の変化から苗木の樹高の成長量を推定しました。その際、植栽直後のDSMの最大値と最小値の差が1.5m以上となる苗木は、DSMと実際の苗木形状が乖離していると判断し、比較対象から除外しました。

●DSM による成長量推定値と標準地調査結果の比較

標準地における植栽直後から1成長期後までの樹高成長量実測値と、DSMから推定した樹高成長量推定値を比較すると、調査地1では、実測値と推定値に相関があったのに対し、調査地2では実測値と推定値に相関がみられませんでした(図-3、4)。また、調査地1では、主軸が折れてしまい実測値でマイナスとなった苗木が推定値でも1番小さい値となっているのに対し、調査地2では、枯死した苗木が推定値からは判別できない結果となっていました。これは、調査地2では植栽直後のDSMと1成長期後のDSMの高さ方向のズレが大きいことが原因と考えられます。調査地2では、変化がないはずの切株上の高さが、2時期のDSM間で30cm以上違っている場所がありました。

●樹高成長量推定値の変化

調査地3では、1成長期後の調査時に苗木がシカの食害に遭い、標準地内の苗木の枝張り幅が植栽直後より小さくなっていました。この調査地では、オルソ画像から標準地内の苗木全てを判別することは

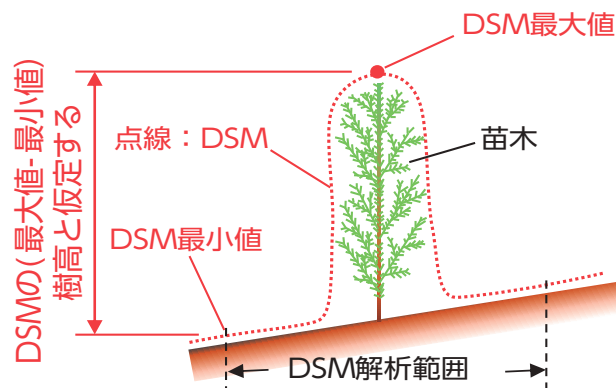


図-2 DSM(数値表層モデル)解析イメージ

困難でしたので、判別できた苗木を囲む枠内のDSM最大値の変化から樹高成長量を推定しました。食害に遭い枝張り幅が減少した1成長期後では推定値がマイナスとなる苗木が多かったのですが、枝葉が回復した2成長期後では多くの苗木の推定値がプラスとなり、DSM変化量から苗木の異常や回復状況の推定が期待できる結果となりました（図-5）。

●ドローンを活用した新植地の見回り点検について

ドローンの空撮画像から得られるオルソ画像とDSMを活用して、苗木の成長量が推定できる可能性があることがわかりました。苗木の成長量が推定できれば、すべての調査地を歩いて見回るのはではなく、全体と比較して著しく成長の遅い苗木や調査地3のように成長量がマイナスとなる苗木の割合が多い調査地を重点的に見回るなど、点検作業の省力化が期待できます。今回は、空撮画像から作成したオルソ画像及びDSMと現地調査結果の比較について紹介しました。

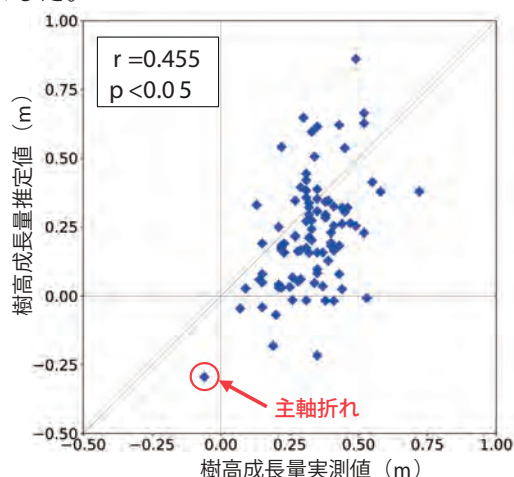


図-3 樹高成長量実測値と推定値の比較（調査地1）
樹高成長量推定値は、DSM最大値と最小値の差の植栽直後から1成長期後における変化量とした。植栽直後と1成長期後の最小値の小さい方の値を成長期後の最小値として採用した。

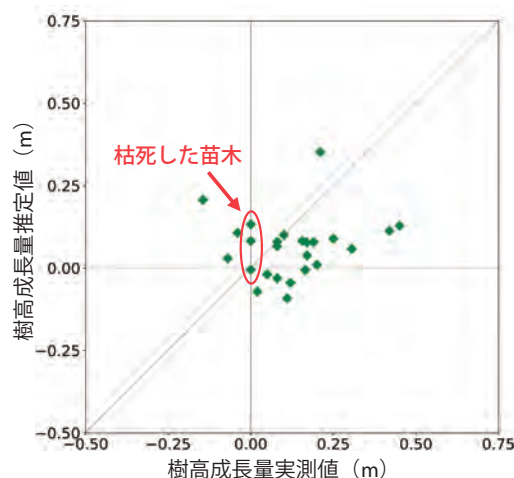


図-4 樹高成長量実測値と推定値の比較（調査地2）
樹高成長量推定値は、DSM最大値と最小値の差の植栽直後から1成長期後における変化量とした。植栽直後と1成長期後の最小値の小さい方の値を成長期後の最小値として採用した。枯死木の樹高成長量実測値は0とした。

この記事で記載していない空撮方法からデータの活用方法についてまとめたリーフレットは、林業研究所のwebサイトに掲載していますので、ご興味のある方はそちらをご覧ください（図-6）。

●おわりに

リーフレットでまとめた方法は、オルソ画像とDSMの比較する時期間の座標のズレが小さい必要があります。また、オルソ画像で新植地内のすべての苗木の位置落としをするには多くの時間がかかってしまいます。そのため、新植地の点検を本格的に省力化するためには、空撮データの簡便な座標設定方法や、精度が高く汎用性のある苗木検出技術の開発が望まれます。

最後になりますが、今回の研究を行うにあたって、新植地の調査にご協力いただきました森林所有者及び林業事業体の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

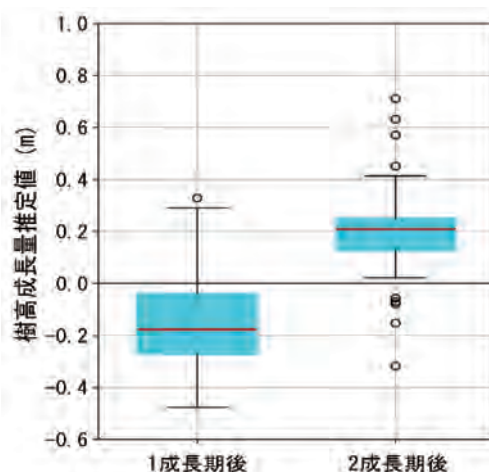


図-5 各成長期後の樹高成長量推定値の変化（調査地3）
オルソ画像で判別できた苗木のみを比較対象とした。植栽直後と成長期後の最小値の小さい方の値を各時期の最小値として採用した。

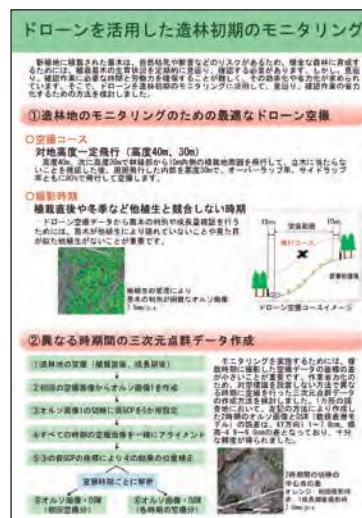


図-6 ドローンを活用した造林初期のモニタリングに関するリーフレット(左)とwebサイト上のリーフレットにアクセスするための2次元コード(右)

地域	区分	樹種	長さ	径	品質	平均価格	高値	前回比	市況
松阪	素材	スギ	3m	16～18cm	並	14,000	15,000	→	(供給動向、価格概況、先行き等) 【素材】 ・ヒノキは良材、並材共に引き合いが強い状況。品薄感からの影響と思われる。 ・スギは、まだ気温が高いのが続いている季節的な要因もあり、色の重い材が多いため、それほど引き合いは強くない。 【製品】 ・ヒノキ・スギ共に造作材は売れているが、並材の動きが出てこない。
			4m	20～22cm	並	13,000	15,000	→	
			4m	24～28cm	並	14,000	15,000	→	
			6m	18～20cm	並	18,000	20,000	→	
		ヒノキ	3m	16～18cm	並	22,000	23,000	→	
			4m	20～22cm	並	22,000	23,000	↑	
	製品	スギ	4m	24cm以上	並	20,000	22,000	→	
			6m	18～20cm	並	30,000	33,000	→	
		ヒノキ	3m	10.5×10.5cm	特一	90,000	100,000	→	

※価格は消費税抜きとし単位は円／m³。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回比は8月の市況との比較。

三重の林業(令和7年9月号)を読んで ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～

(菰野町みどりの少年隊が美しの森づくり活動コンクールで会長賞を受賞しました！)
・活動を長年にわたって支えてきた地域の団体や保護者の皆さんの理解と協力をたたえたい。
([里山かがく学院]で三重の森林づくりネットワーク交流会を開催しました！)
・山に足を運ぶことで書籍では得られない発見や気づきがあるという点に共感した。
(宅地造成及び特定盛土等規制法)
・安全確保のためにも丁寧な説明が必要だと思う。
(グリーンウッドタクミ協同組合が日本製材技術賞の農林水産大臣賞を受賞しました！)
・試行錯誤を経て高品質な芯去り材の生産を行っており、木材産業を高めていきたいという意志を感じ励まされた。
・技術力だけでなく無災害記録もすごいと思う。
(尾鷲ヒノキをもっとたくさん植えようプロジェクトはじめます)
・森林の未来につながる意義ある取組だと思う。
・地域に合った森林育成や独自の優良材産出を支援すべきところ、補助金が出ない仕組がおかしいと思う。地域の独自性に寄添わなかった結果である。
([木の町熊野木工コンクール]の上位入賞者作品が農林水産大臣賞等に選ばれました！)

・本物のトンカツだと思ったので、木で出来ていることにびっくりした。正に傑作だと思う。
(斎藤木材(有)の新しい取組み 酵素浴とは？)
・おが粉を有効利用でき酵素浴を提供するのは面白い。使用後に肥料として使われるのも良いと思う。
(この人に聞く 株式会社nojimoku)
・顧客の満足を目指す経営方針が伝わった。
・会長の歩みや考え方が深く伝わる内容でドキュメンタリーを読んでいるようでした。
(三重大学:森林からの蒸発散～森林から大気へ帰る水量を測る～)
・気候の変化が蒸発散や流出に及ぼす影響について調査を続けて欲しいと思う。
(長森なあなあ日常～七転び八起～)
・つまずいたり転んでも立ち上がって元気に林業に従事していること、前向きに話されている。
([三重の林業]をアーカイブ化しました！)
・創刊が昭和29年と古くからあることに驚いた。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。

三重の林業9月号の誤字について 目次中のタイトル及び執筆者のお名前に誤字がありましたのでお詫びして訂正いたします。	(誤)	(正)
	宅地造成及び特定盛土当規制法	宅地造成及び特定盛土等規制法
	大断面スギ正角柱材の感想について	大断面スギ正角柱材の乾燥について
	松阪飯南森林組合 長森 祐介	松阪飯南森林組合 長森 悠介



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 **三重県森林協会**
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220



台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください







「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

守ろう地球と地域の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

林業用苗木の生産・販売

ー緑資源は優良苗木でー

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 和彦

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな

「三重の木」 認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会

TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 落合 賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

みえ森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori>
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など
林業に関する総合的なサポートを行います!

林業を支える人々を応援します、

森林を未来へ繋げるために



公益社団法人

みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内
Tel: 059-261-1398 HP: <http://miekikou.jp>

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

お任せください!

中勢森林組合 **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1
TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> **STIHL Shop**
TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

間伐作業 高枝切作業 菌床きのこ生産 液体ガラス改質木材 家具製作販売 足場・支柱 製造販売

JForest 松阪飯南森林組合
【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3
TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545
◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこと

OKO 株式会社 オオコチ

三重のサステナブル経営アワード受賞 みえの木建築コンクール優秀賞受賞 JAS 認証工場 三重の木認証工場

三重県松阪市大黒田町 472 TEL : 0598-26-1551 FAX : 0598-21-2676 E-mail : info@ookochi.co.jp HP : <https://www.ookochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ

株式会社 nojimoku
〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
TEL : 0597-85-2485 FAX : 0597-85-4056
HP : <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進

<http://www.ajiko.co.jp/>

アジア航測株式会社
三重営業所
三重県四日市市安島一丁目5番10号
KOSCO四日市西浦ビル
TEL : 059-342-0501 FAX : 059-342-0503
森林環境課・森林情報課
神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨

度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

注文住宅 太陽光 × 制震装置 × デザイン × コストパフォーマンス

完全自由設計の家づくり

oh!! one house. 0120-02-1936
[営業時間] 9:00 ~ 18:00 [定休日] 水曜日
HP Instagram YouTube